

with Dignity

金城学院の明日を見つめる【ウイズ・ディグニティ】

金城学院報 | vol.31
2018.07

【特集1】

金城学院中学校・高等学校の 輝ける未来と展望

【特集2】

「女性みらい研究センター」誕生

【クローズアップ】

金城学院大学

川瀬 正裕 教授

金城学院高等学校

植木 隆伸 教諭

金城学院高等学校の風景 榮光館のステンドグラス

榮光館の西側の2階の講堂に上る階段のステンドグラス。これは、3階の小礼拝堂までつながっている。2階のステンドグラスは青の配色が多く、下にいくほど青が多くなる。ひとつながりで見ると、まるで水が湧き出し流れ出しているよう。そんな神さまの愛の泉から流れ出る、水のせせらぎの光が榮光館に差し込んでいる。



長屋頼子校長
就任インタビュー

特集1

金城学院中学校・高等学校の 輝ける未来と展望

「科学的思考」「表現」「協働」の三つの力で 主体的に生きる女性を育成

長年金城学院で教鞭を執られ、副校長として学院全体を支えてこられた長屋頼子先生が
このたび中学校・高等学校の校長に就任されました。

目まぐるしく変化する現代に対応するために必要な「科学的思考」「表現」「協働」を育む金城学院の教育観、
その礎となっているのは「聖書に基づいたキリスト教教育」と「Dignity(総合的な学習の時間)」です。
そのうちの「Dignity(総合的な学習の時間)」に対するお考え、
また常に生徒と寄り添うことを大切にいらっしゃるその思いについてお話を伺いました。

三つの力を身につけて、 主体的に生きる力を育成

このたび金城学院中学校・高等学校
の校長に就任するにあたり、あらためて
中学校・高等学校の教育観について
お話ししたいと思います。

本校は創立者がおっしゃっている「福音

主義キリスト教に基づいた教育を礎に、
神と人へ奉仕ができるリーダーとなる女性
を育てたい」という思いのもとで教育を
行っております。特に生徒たちには6年間
の学びの中で「科学的思考」「表現」
「協働」の三つの力を身につけてもら
うべく、カリキュラムを組んでおります。「科学的
思考」とは疑問を持ち、課題を立てて

情報を集め、それを分析し、よりよい解決
策を生み出す思考力のことをいいます。
これらの思考や疑問を自分の言葉で伝える
ことが「表現」です。また自分の考えを
明確に伝え、相手の考えを聞く、その中
から新たな発見をしていくことを「協働」
と呼んでいます。こうした三つの力を身につ
けるために、新カリキュラムに向けて、授業

金城学院中学校・高等学校 長屋 頼子 校長

金城学院中学校、高等学校、大学文学部社会科学学科を卒業。1988年度に中学校教諭。1996年度に高等学校教諭となる。2012～13年度金城学院高等学校教頭、2012～17年度学校法人金城学院評議員を務める。2014年度より金城学院高等学校副校長を務める。2018年に金城学院中学校・高等学校校長となり現在に至る。



長屋校長先生はどんな人!?

今年、授業で教えてもらっている高校の生徒たちに、長屋校長の印象を窺いました。するとどの生徒からも聞かれたのが「優しく包んでくれるお母さんのような先生」「そばにいと安心できる」という言葉。常に自分の娘のように生徒たちのことを思う長屋校長の心がしっかりと伝わっていることがわかります。また「ごきげんようというご挨拶が素敵」「憧れの先生」という言葉も聞かれ、生徒たちの憧れの存在であることも窺えました。

改善をしています。

大学入試センター試験もこれまでは詰め込んだ知識を問う内容がほとんどでしたが、昨今では表現力や思考力を試される内容へと変化しています。文理を問わず複数のグラフや文章を読み解いて答えを導き出す力が要求されています。先日、高校3年生の保護者の方が「まさに金城学院の学びが活かされると思います」といってくださり、大変嬉しく思いました。複数の視点から考え問題解決に導く力、根拠を添えて自分の考えを述べる言語力、こうした総合的な力を6年間で身につけられるように指導していく所存です。私は校長となった今も、高校の芸術科書道で教鞭を執っております。授業で生徒は日本や中国の古典

書を比較して違いを発見し、それを自分の言葉で友達に説明するという協働の学びをしています。日々の授業の中で気づき、分析し、仲間と協働しながら言葉で表現する能力を常に高めていってほしいと願っています。

生徒たちとの コミュニケーションを大切に

こうした教育のすべては金城学院のDignityが礎となっています。Dignityとは、自己発見に始まり広い視野で物事が見られる女性の育成をめざして行う総合的な学習時間のことです。私たちはDignityを通して品位と尊厳を保ちながら社会に参画し、主体的に生きる女性を育てています。また私たちは、教育目

標図にある力を育成すべく各カリキュラムを構築しています。

生徒が宝物であることはもちろんのこと、金城学院にとっては生徒のことを一生懸命考え、指導を行っている教員や、その教員を支えてくださる職員の方々もすべて宝物です。そのためまない努力に心から感謝をしつつ、今後も主体的に生きる女性を育てるという教育目標のもと、全教職員が一丸となって教育に取り組んでいきたいと考えています。

私自身も教師になってから今日まで、生徒たちのことを自分の娘のように思っただけではありません。校長になってもこれまで同様積極的に生徒たちと接していきたいと思っています。休み時間はもちろんのこと、登校や下校時間も出来る限り生徒たちとコミュニケーションを取って、生徒たちのことをもっと理解していきたいと思っています。

目まぐるしく変わる現代、AI化もますます進み、これまで人がやっていた仕事が無くなってしまふこともあるでしょう。しかし人にしかできないことは必ずあります。そこにぜひ挑戦をしていってほしい。リーダーとして、あるいは縁の下で力持ちとして寄り添い、支え合える人になってほしい。そのために校長として、また学校としてこれからも保護者の方々とも手を取り合い、責任を持って生徒たちの健やかな成長のサポートをしていきたいと思っています。



地域や社会とつながり 開かれた金城学院へ

金城学院高等学校
内田 孝 副校長

1979年、金城学院中学校の非常勤講師となり、その後中学校専任教諭となる。1991年より金城学院高等学校へ、1995年より6年間進路指導課長を務める。2002年に金城学院中学校教務課長、2012年に教頭に就任。2014年に中学校副校長となり、今年4月より高等学校副校長に就任。

日々の積み重ねが 各自の力につながる

教会でのご縁をいただき、金城学院中学校で11年教えたあとに高校の進路課長や中学の副校長を務め、このたび高校の副校長に就任することになりました。生徒たちを長年教えてきて思うことは、みなさん優しくいい子ばかりだということです。学外からも「バスの席を譲っていただいた」などとお礼の声もいただき、生徒たちの中にキリスト教教育やDignityが根づいていると感じます。生徒たちには金城学院で身につけた優しさや奉仕の精神を、将来の進路選択や社会で役立ててほしいと思います。

40年の教員生活ではあらためて積み重ねの重要性に気づくことができました。たとえば中学では年に一回、読書感想文を書きます。金城学院中学校はこれまでに読書感想文コンクールで総理大臣賞を二度いただいておりますが、これも“書く”ということの積み重ねが実った結果だと思えます。生徒たちには課題図書だけではなく、自分の好きな分野や興味を持った分野の本をたくさん読んでほしい。読書だけではなく興味のある学びや研究はどんどん深めてほしいと思います。それが各自の力になり、主体的

に生きる力へとつながります。力がつけば何事も自信を持って取り組めるようになるのです。私自身も学生の頃、大好きな化学を一生懸命研究しました。時には先生に無理をいって研究を進めたこともありましたが、結果として今の自分の力になっていると実感しています。

家庭と連携を取りつつ 主体性を育む

また毎朝の礼拝の中でぜひ、自分が好きな聖書の御言葉を見つけてほしいとも思っています。その御言葉はきっと、将来心の支えになり、生きる励みになると思います。

生徒たちにとっては学校や家庭がすでに社会のはじまりです。その中で自分がどのように過ごしていくかを自分自身で考え、行動することが主体性につながります。また自分で考えたことにはきちんと理由付けができる科学的思考や、みんなと議論、協働しながら何事も取り組んでいける力を身につけてほしいと考えています。金城学院としては今後も、家庭と連携を取りながら一人ひとりの生徒たちのこうした力を養っていく環境を整えていきたいと思っています。

さらに副校長としては今後、もっと

地域や社会ともつながりながら金城学院を社会に開かれた学院にしていきたいと考えています。地域の方々との連携はもちろん、生徒たちももっと外に出ていろいろな世界を知ってもらいたいです。新しい世界の中で、新たな自分を発見し、自分に自信と力をつけて自立できる女性になってほしい。そのために、教職員一丸となって今後も努力をしていきたいと思っています。



金城学院中学校
野々垣 慎治 副校長

1987年に東京理科大学理工学研究科物理学専攻修士課程修了後、金城学院高等学校へ理科の非常勤講師として就任。1988年に高等学校専任教諭となる。1999年に金城学院中学校へ、2009年より企画広報室長。2013年に中学校教務課長、2018年に中学校副校長、学校法人金城学院評議員に就任。

聖書の教えを礎に 明るく輝く女性を育む

生徒たちの活躍の場を より多く作り出す

このたび副校長に就任することになり、今まで以上に大切にしていきたいことは、朝の礼拝で、生徒たちにわかりやすく言葉を選び、多感な時期の中学生にお話することで、本校の建学の精神であるキリスト教を伝えていきたいと考えています。

また生徒たちが活躍できる場をより多く提供していきたいとも考えています。金城学院には、部活動や行事、奉仕活動など授業以外にも生徒が参画する場があります。授業ではあまり目立たない子でも、部活や行事ですばらしい能力を発揮する子はたくさんいます。こうした生徒たちがひとりでも多く輝けるような場を作っていきたいと思っています。

授業でも文部科学省が推奨するように探求活動や発表などのワークショップを多く取り入れ、生徒たちの表現力や思考力を伸ばしていこうと考えています。こうした授業もまた、生徒たちの新たな一面を見出し活躍の場となることでしょう。

1人ひとりの 夢の実現を支援

さらに中学では来年度から新カリキュラムに移行するにあたり、

現在さまざまな準備を進めています。次年度以降の新カリキュラムに向けての改革を教職員全員で全力をつくし、金城学院の教育方針である「社会に参画し、主体的に生きる女性」となるように生徒たちを導くことを目指しています。

生徒たちは金城学院中学校に、さまざまな夢を抱いて入学してきます。たとえば将来はグローバル社会で活躍したい、国家試験を受けて資格をとりたい、あるいはご両親のそばで職につき、自分の家庭を築きたいという子もいるでしょう。こうした一人ひとりの夢が叶うように力をつけさせること。それが私たちの使命だと考えています。そのため金城学院の教職員が一丸となって考え、努力していかなければならないと思っています。

金城学院の卒業生は明るく他者への思いやりや優しさにあふれた人たちばかりです。それはひとえに聖書の教えによるものだと思います。成長期に毎日の礼拝で聞いたすばらしい聖書の御言葉は必ず心のどこかに残ることでしょう。その御言葉を支えにどんときも前向きに明るく生きていける、そんな女性を育ていける学校作りをこれからも心がけていきます。



「女性みらい研究センター」誕生



女性が生きていくなかで直面する課題の解決に向けた研究を行い、社会人女性の学びやキャリアをサポート

2018年4月、金城学院大学「女性みらい研究センター」が開設しました。

キャリアを積む女性のさらなるブラッシュアップや、子育て世代の再就職をめざしてのプログラムなど、多彩な実践プログラムと女性に関連する問題の研究を行いながら、女性のみらい創造を支援していきます。こうした活動内容や今後の展望について、

女性のキャリア発達を研究されている宗方比佐子先生にお話を伺いました。

Ⅰ 女性みらい研究センターの学びのプログラム

金城学院大学ではこれまでも「エクステンションプログラム」などで、市民や社会人に対して広く公開講座を行ってきました。「今回開設した女性みらい研究センターでは、特に女性に特化して、働きながら本格的に学び直しをしたい方や、再就職をめざしている子育て世代の女性をサポートします」と宗方先生は話します。

キャリアを発展させたい女性を対象にした「働く女性のブラッシュアップ・プログラム」では、人生100年時代のキャリアデザイン、働く女性の金融・経済入門、働く女性の情報管理、働く女性とリーダーシップ、働く女性の栄養学、働く女性のからだの健康、働く女性のこころの健康、グループキャリアカウンセリングなどの講座を予定しています。

再就職をめざす女性を対象にした「仕事再開準備プログラム」では、人生100年時代のライフデザイン、女性のための起業入門、暮らしに役立つファイナンシャル・プランニング入門、暮らしに役立つ栄養学、暮らしに役立つからだの健康、暮らしに役立つこころの健康、グループキャリアカウンセリングなどの講座を予定しています。

「女性みらい研究センター」のミッション

あらゆる年代の女性たちが、自分らしく輝く「みらい」を創造するために

女性みらい研究センターでは、金城学院大学がこれまで培ってきた女子教育の実績を活かして、卒業生を含めた社会人女性の「みらい創造」に貢献します。「まさに女子大だからできることです」と宗方先生は話します。具体的な活動は以下のとおりです。

I 研究を通して女性が直面する課題の解決に貢献

金城学院大学の知を結集し、女性の課題解決に資する研究を推進します。学内には女性に関わる研究を行う教員が多く在籍しています。また学外の研究者にも協力していただきながら、紀要や出版物という形で研究成果を発信していきます。

II 社会人女性の学び直しプログラムを提供

超高齢社会といわれる昨今の日本において、女性に求められる生き方について考えます。人生のタイムスパンが大きく伸びたことで結婚や子供の有無にかかわらず、女性の人生には仕事にもプライベートにもこれまで以上に選択の可能性が広がり、何度も人生をリクリエーション(再創造)するチャンスがあります。そんな人生100年時代のライフデザインを充実させる鍵は、ライフ・ロング・ラーニング(生涯にわたり学び続けること)です。「女性みらい研究センター」の学習プログラムに参加し、みらいを創造するための知識やスキルを身につけることで、人生をより豊かにすることへとつながります。

III 専門家がキャリアデザインやライフデザインをサポート

多くの女性は自分の将来に夢や希望を膨らませる一方で、漠然とした不安や焦燥感を持つことも少なくありません。「女性みらい研究センター」は、こうした女性たちの率直な思いに応え、キャリア相談や子育て相談を実施します。「女性みらい研究センター」の相談機能を活用することで、みらいに向けて勇気をもって一歩を踏み出すチャンスが広がります。



金城学院大学 人間科学部 多元心理学科
特命副学長
女性みらい研究センター センター長
宗方 比佐子 教授

名古屋大学大学院修了。2002年より金城学院大学人間科学部教授。専門分野は産業・組織心理学、社会心理学。女性のキャリア発達、女性管理職・女性リーダーに対する態度、職場のメンタルヘルス、構成主義キャリアカウンセリングを研究。元名古屋市男女平等参画審議会会長。主な著書に「女性が学ぶ社会心理学」「キャリア発達の心理学」などがある。

女性みらい研究センターの活動

キャリア・子育て・健康など、女性がライフコースの中で遭遇する主要なテーマについて、女性みらい研究センターは研究し、学びのプログラムを提供し、相談に応じます。

研究しています RESEARCHING

研究者が女性に関わりの深いテーマについて研究を行い、女性のみらい開発に役立つ成果を発信します。

学べます LEARNING

女性たちが社会、地域、家庭でいきいきと力を発揮できるよう、多彩な学びのプログラムを提供します。

相談できます COUNSELING

一人ひとりのみらいのために、専門のカウンセラーがキャリアまたは子育てに関する相談に応じます。

◎詳しくは、「女性みらい研究センター」のホームページをご覧ください。→ <http://mirai.kinjo-u.ac.jp>

CLOSE UP

クローズアップ

金城学院大学

川瀬 正裕
教授

心理学、教育学を専門分野とし、児童思春期の心理臨床や障がい児とその家族への援助、地域における心理臨床活動の研究を行う。日本心理臨床学会、日本児童青年精神医学会、日本心理学会、日本教育心理学会、日本青年期精神療法学会、日本学校メンタルヘルス学会所属。(社)愛知県臨床心理士会会長。

自己理解を深め、お互いを認め合い 自分らしく生きられる人に

子どもの頃から人とかかわることが好きで、心理学の道を選んだ川瀬先生。

発達障害支援を専門に学校での特別支援教育におけるシステム作りを研究・構築されるかたわら、

授業では実践を通して、学生たちが発達障がい児教育の現場で役立つ力をつけられるよう、教えていらっしゃいます。

また「自己理解を深めることでお互いに認め合える」と話し、

学生たちには自分を大切にしてほしいと願っていらっしゃいます。

「相互障害」の考え方が 今の研究のベースに

1人っ子のせい小さい頃から私は人に興味があり、かかわるのが好きでした。喘息で体が弱く、発作が出て学校を休むこともありましたが、学校へ行くと友人たちと思いきりはしゃいで遊びました。その結果、また発作が出て学校を休む、ということもありましたが、とにかく友達と一緒にいるのが楽しくて仕方なかったのです。

人のことをもっと深く学ぼうと決めたのは高校のときです。人にかかわることという、たとえば医学もそうですが、私は日常生活レベルでの人の心理を学びたかったので、心理学へと進みました。

大学時代の学びで今の自分の礎となったのは、3年の時にはじめた自閉症の子どものボランティアです。国の保健機関で週に一回、自閉症の子どもたちと遊ぶというのがその内容でした。最初は「この子たちのお世話をしっかりしよう、能力を伸ばそう」と思って頑張っていましたが、実はそれがおごりであり、「相互障害」だということを知りました。私たちも障がい児が何をしたいのか、いいたいのかを理解できない障害を持っているということです。つまり相手にとっては、こちらが障がい者なのです。この考え方は臨床活動と研究のベースとなっています。

また臨床的な活動のひとつとして、幼稚園教諭や保育士の心理的な養成にも携わっています。日々多くの子どもたちと接する幼稚園教諭や保育士は、子どもたちの様子から早い段階で障害を見つけることができます。早期に見つけ、それをどこへつなげるかを判断

する力をつけることが、大切なことだと考えます。



人とのかかわりが 自己理解につながる

大学では発達教育心理学ユニットを担当し、子どもの発達障害や教育について教えています。特に特別支援教育と障がい児援助という科目では、実践的な学びを行いながら障がい児教育への理解を深めていきます。たとえば障がい児に字を教えるにしても、その方法はひとつではありません。そのとき学生が突然思いつくアイデアもあり、正解はないのです。これらの学びを通して、将来学生たちが障がい児教育の現場で、より多くのアイデアを生み出せるように

力を養っています。

私自身は、医師、教員、保育士、保健師などの多職種連携を踏まえた特別支援教育のシステム作りを研究しています。今や障がい児援助や特別支援教育は学校だけでは解決できず、文部科学省も「チームとしての学校の在り方」を提案し、教師だけではなく多様な専門性を持つ人たちとの連携の必要性を掲げています。こうしたシステムを構築するために、実際に学校や幼稚園の先生方と一緒に考えながら臨床実践を行ったりしています。

障がい児と私たちがお互いに理解し、認め合うには自己理解を深めることが大切です。自分の存在意義を知ることができ、心にゆとりができ、相手を認められるようになります。そのためにはまず人とかかわることが大切です。いろいろな人とかかわる中で自分という存在が見えてきます。自己理解を深めることで、自分らしくいられることができるのです。学生の皆さんには自分の存在をきちんと認め、自分らしく生きてほしいと願っています。

川瀬先生はどんな人!?

大学院の指導生に聞きました。「優しくサポートをしてくださる」「悩みも聞いてくださる気さくな先生です」と温かいお人柄の先生に感謝の声が聞かれました。実習でも「穏やかな口調で指導してください」「相談しやすく信頼できる先生です」と学生から親しまれ、頼りにされている様子が窺えました。



CLOSE UP

クローズアップ

植木
隆伸
教諭

金城学院高等学校

1967年横浜市生まれ。大阪外国語大学(現・大阪大学外国語学部)卒業。一般企業に勤務後、1999年から金城学院中学校の教員に。中学でソフト部、高校でバドミントン部などの顧問を歴任。現在は高等学校で英語科を教える。

たくましさ、しなやかさを持つ女性に

高校時代から中南米の文化や国柄に興味を抱き、

大学時代にはメキシコからコスタリカまで2ヶ月ほどを一人で旅した植木先生。

「英語は表現や情報発信のツール。単語や文法の暗記だけでとどまってほしくない」と話し、

生徒たちには「国内外で活躍し、さまざまな国の人々との交流を」と願っていらっしゃいます。

また「社会の中でたくましくしなやかに生き抜いていく力を持った女性になってほしい」との思いを抱きつつ、

日々生徒たちを見守っていらっしゃいます。

部活動やアルバイト 旅を通して見識を広める

中学、高校と野球部に、大学ではヨット競技部に所属しました。ヨットというと優雅なイメージですが、体育会独特の厳しい上下関係があり、兵庫県西宮市の宿舎で毎週末は合宿生活というイメージとは程遠い毎日を過ごしていました。チームスポーツの部活動を通し、仲間との人間関係づくり、礼儀を叩き込まれたように思います。一番大きかったのは粘り強さを養えたことです。運動は今も好きで、週二～三回はランニングを続けています。コンスタントに走るようになって以来、体調も崩しにくくなり、年に数回大きな大会に出場することで、良い循環ができ、時間を効率的かつ計画的に使う習慣も生まれました。

高校のときに読んだ小説がきっかけでラテン系の国々の人が持つ温かさや情熱的な気質に魅かれて、大学ではスペイン語を専攻しました。中米の現状を体感したいと、メキシコからコスタリカまで2か月ほど旅したこともあります。アルバイト代を元手にしていたので、安い長距離バスで移動、行った先々で安宿を探すチープな旅行でした。しかし、こうした旅行だったからこそ観光客としてではなく、現地の人々と同じ目線でふれ合い、貴重な経験をすることができたと思います。

また学生時代は20種類以上のアルバイトを経験しました。多くの職種にチャレンジした理由は生活や旅行のためもありましたが、いろいろな社会の側面にふれたかったからです。学生時代にしかない自由な時間、許された立場を利用し

て人生経験を積みたいといつも願っていました。卒業後は一般企業に勤めましたが、本などで情報を見聞きするうち、教えることの奥行きの高さに啓発され、教職に憧れるようになりました。働きながら資格を取り、教会でのご縁が繋がって金城学院で教鞭を執るようになったのです。今年で20年目を迎えます。



英語は表現、発信の グローバルな手段

現在は高校で英語を担当しています。英語というのはひとつの道具であり表現の手段です。今の世の中は学校で知識を吸収し、それを定着させるためだけの学習に留まることなく、自分で情報発信をし、意見を主張することが求めら

れています。生徒たちには将来、海外の人々ともかかわることを見据えて、知識の詰め込みで英語文法や単語を暗記する学習ではなく、ツールとして共通言語の英語を身に付けていく学習をしてもらいたいと思っています。そのためには、教師も時代の波に乗り遅れないよう、さまざまな教育法や考え方に日々ふれていかななくてはならないと実感しています。

生徒たちは中高一貫教育で集団生活をしていくうちに保守的、安定志向になってしまいがちなところがありますが、今以上にもっと外の世界に興味、関心を持ち、いろいろなことにチャレンジする姿勢、考え方を持ってほしい、またどんどんリーダーシップを発揮して、自分自身の個性を磨いてほしいと思っています。

金城学院の中高教育方針として謳われる「社会に参画し、主体的に生きる」という女性像。それを体現する女性、また自分の考えたことを実行し、やり遂げる力を持ち、社会の中でたくましくしなやかに生き抜いていく力を持つ女性になってほしいと願っています。

植木先生はどんな人？

高校3年の後藤友里さんと古賀麻佑子さんに植木先生について聞いてみました。「授業がとてもわかりやすい」「わからないことはきちんとサポートしてくれる」との声が聞かれました。また「授業以外の悩みもアドバイスをくださり、励みになる」「教務課長としてもご多忙なのに、常に私たちを気遣ってくださいます」という言葉に植木先生の誠実さや優しさを感じられました。





学習支援を通し子どもたちをサポート 生活環境学部 古寺教授と学生有志ら

NPO法人との協働で 毎週月・木曜日に活動

生活環境学部生活マネジメント学科の古寺浩教授と学生有志が瀬戸市のNPO法人チームレスキューの小野隆史氏と協働して、尾張旭市内で学習支援と子ども食堂を通じた支援活動を行っています。

ボランティアに登録しているのは他学部の4人を含めた32人。昨年7月にスタートし、今年度から国などが進める無料学習支援事業「地域未来塾」にも



子ども食堂メニュー



生活環境学部 生活マネジメント学科
古寺 浩教授

岐阜大学教育学部家庭科専攻卒業後、静岡大学大学院教育学研究科、大阪市立大学大学院で生活経済学、家政学史を専攻。1992年から金城学院大学で教鞭を執る。専門は生活経済学、パーソナルファイナンス教育。担当科目は「生活経済学」「ファイナンスプランニング」「金融商品学」など。

採択されました。

学習支援は毎週月・木曜日の17時から21時。小学校1年生から高校1年生まで約40人が登録しており、常時15人ほどが参加します。月2回ほど子ども食堂も行い、学生たちは元教員の市民らとともに学習支援を担当しています。

「この活動を共に行っているチームレスキューとの出会いは東日本大震災でのボランティア活動がきっかけです。チームレスキューの呼びかけに応え、震災ボランティアには多くの学生が参加しました。その後、尾張旭市での学習支援を手伝ってもらえないかとの相談を受け、昨年7月から協働で取り組むことになったのです。手探りのスタートでしたが、今では学生も積極的に取り組んでくれるようになりました」と古寺先生は話します。

子どもたちは基本的に自習を行い、分からないところを学生に聞きます。ときには小学生から即答できないような難しい質問を受けることもあり、学生たちは「面白い発見がある」「教えるだけでなく教わることも多い」と貴重な体験を積んでいます。

信頼築き、子どもたちにも変化 活動報告が学長懇話会銅賞受賞

古寺先生も「始めたころはあいさつができなかった子どもたちが、最近元気にあいさつをするようになってきたことに気付きました。中学校の2・3年生は学生たちと一緒に食事の配膳を手伝ってくれるようになり、子どもたちもずいぶん変わってきました。学年や学区を超えた交流もできてきたように思います」とスタート時からの子どもの変化を振り返ります。

今後の課題は今年度から「地域未来塾」に採択されたことで国から下りた予算のやりくりです。教材調達の面では



子ども学習支援風景
助かるものの、使い道については配慮すべきことが多々あり、協働するNPO法人や行政と相談しながら検討する必要がありますと考えています。

「学習支援を行うことは教員をめざす学生にとって勉強にもなります。この活動を通して、子どもたちへの支援のあり方や、保護者とのかわり方、他団体との協働、学生同士のチームワークなど学ぶことも多いと思います」と古寺先生は期待します。

またこうした活動を通してリーダーシップを発揮して活躍する学生も多く、中には活動での学びを公の場で発表した学生もいます。活動を始めた当時、古寺ゼミ4年生だった各務明里さんと、現在4年生の宮地杏奈さんは、今年3月に名古屋学芸大学で行われた愛知学長懇話会主催シンポジウムで「子ども学習支援と子ども食堂を通じた子ども支援活動報告」と題した活動報告をし、優秀賞(銅賞)を受賞。活動が子どもたちだけでなく学生自身の成長にも繋がっています。



シンポジウムでの発表

◎この活動へのボランティア参加やご支援については、メール(lei.cafe2017@gmail.com)にてお問い合わせください。

多彩な絵本の読み聞かせや楽しい遠足で 豊かな感性と健やかな成長を育む

保護者も絵本読みに協力 園児たちの心の栄養に

子どもたちにとって絵本はとても身近なものです。幼稚園では保育者が子どもたちの“今”を捉え、そのときの子どもたちの興味にそった絵本を提供していきます。たとえば虫が大好きな子のいるクラスでは、部屋の片隅にさりげなく「昆虫図鑑」を置きます。夏が近づくと、泥んこや水遊びが楽しくなるような絵本を置いておきます。また、言葉の響きが楽しく真似してみたいくなるような絵本、昔から親しまれている絵本もそのときに合わせて提供しています。同じ絵本を見て一緒に笑ったり、驚いたり。クラスで読んでもらった絵本を後からじっくり見てみたら、前には気付かなかった発見をすることもあります。また、絵本は登場人物の声色や、効果音、間の取り方など、読み手によってさまざまに雰囲気も変わります。話の内容は覚えていなくても、その時の雰囲気や人の声の暖かさは心の中に残っていくものです。幼少期にそのような体験をしてもらうことが、子どもたちの成長に必要な心の栄養となることを信じています。

また園では絵本の持つ豊かさを子どもに伝えていくために、子どもたちが絵本を手取るだけでなく、読んでもらうことを通しての交流を大切にしています。

2017年度にスタートした満三歳児保育による部屋の改築に伴い、保育室の一角に「絵本コーナー」が置かれるようになりました。以前にも絵本貸し出しの



際には保護者が、貸出補助や絵本の読み聞かせをしてくださっていました。「絵本コーナー」に変わってからも“子どもたちとの交流の場をなくしたくない”という保育者・保護者双方の願いから「絵本よみ父さん母さん」を募集し、貸し出しのある日には有志の保護者の方が来てくださっています。私たちの園では「〇〇父さん母さん」として、いろいろな場面で保護者の方が保育に加わってください。参加募集を貼り出すとすぐに希望者でいっぱいになるほどで、保護者の“子どもたちとともに育てていきたい!”という思いを感じています。

「絵本よみ父さん母さん」は、まだ慣れない年少児にはどんな遊びや絵本が好きかサーチし、おすすめの絵本を提案して下さったり、悩んでいる子には一緒にどんな絵本がいいかを考えて探すなど、子どもたちが“選ぶ”お手伝いをして下さいます。「これ読んで〜」「次はこっち〜」次々にお気に入りの絵本を持ってくる子どもたち。一つの絵本を通して同じ経験ができることは素敵です。

自然とふれあいゲームも 楽しい遠足を実施

幼稚園から約2km先にある公園へ、保護者と一緒に手をつなぎ、仲間と共に歌い、おしゃべりしながら楽しい遠足のはじまりです。

道中目にする花や虫、気持ちのよい風や鳥の声、さまざまな発見をしながら歩いていきます。草花に詳しい保護者が



花の名前を教えてくださいたり、虫に驚いて転びそうになったり、長いと思っていた道もあったという間でした。

公園についたら今年のテーマソングを歌い、お祈りをしたあとはゲームタイム。新しいクラスの仲間との交流として自己紹介を兼ねたゲームや、毎年大盛り上がりのボール送りなどを楽しみました。その後気持ちの良い空の下、おいしいお弁当をいただきました。年少児にとっては幼稚園のメンバーで初めてのお弁当でしたが、保護者やお友だちと一緒に、外で食べるお弁当の味は格別だったことでしょう。いつもはあまり食の進まない子どもも楽しい雰囲気にあと押しされ、たくさん食べられたようです。

食後は遊具のある広場に移動して遊びます。この時期には近隣の小学校も遠足が重なり、中には金城学院幼稚園の卒園生もいて、幼稚園児に声をかけてくれたり、遊具の順番を譲ってくれる姿もありました。子どもだけでなく大人も真剣勝負になるドロケイは、いつも幼稚園で楽しんでいるときは違う雰囲気の中でより盛り上がりました。

最後には讃美歌を歌い、お祈りをして、その日一日の恵みを神様に感謝しました。「こんなに歩けるようになった」「子どもと手をつないで長距離を歩くのは久しぶり」「歩ききった時の子どもの顔が忘れられない」毎年行っている行事だからこそ、自分の子どもの成長に気付いたり、来年の姿を楽しみにしたり、子どもだけでなく保護者も楽しく過ごされました。

高校3年の鈴木暖生さんが 名大MIRAI GSCでドイツ研修

フライブルク大教授らを前に 英語で研究発表

去る3月、高校2年の鈴木暖生さんが名古屋大学が実施する「名大MIRAI GSC(グローバルサイエンスキャンパス)」のドイツ研修に参加。フライブルク大学にて英語で研究発表を行いました。

同プロジェクトは科学・技術の世界を牽引する人材を養成するため東海地方の高校1、2年生を対象に毎年行われているものです。鈴木さんは応募した高校生260人の中から名古屋大学での講義、研究室研修の選考を経て海外研修を行う26人に選ばれ、ドイツ研修に向け準備を進めてきました。

研究テーマは「肺がんの分子標的薬 Gefitinib」について。鈴木さんは「応募書類を作るところから考えると1年弱か



かり、とてもハードでした」と振り返ります。

「研究自体も高度な内容で難しかったのですが、発表用のパワーポイント資料を作るのにも苦勞しました。フォントや字体、書式を揃え、細かいところまで厳密に整えなければならず時間がかかりました」。

昨年12月には岡崎市の自然科学研究機構で行われたイベントで英語のポスターセッションを実施。2年生になり学校の勉強も忙しい中で、時間を調整しながらポスターセッションとオーラル発表の両方を準備しました。

予測できない 質疑応答に最も苦心

研修のハイライトはフライブルク大学での研究発表です。「発表は練習してきたことを話せばいいのですが、発表後の

質疑応答ではどんな質問が出るのか分かりません。緊張もしていたので、質疑応答が一番難しかったです」と鈴木さん。

「科学の世界では英語が話せることはアドバンテージではなく当然のこと。この体験を通して英語をもっと話せるようになりたいと思います、今以上に勉強



「名大MIRAI GSC」の修了証

しなければならぬと実感しました。また研究では知らないことだらけだったので、もっと知識を深めることが大事なのではないかと感じました」と今回のプログラムを通じて、自分に必要なことに気がきました。またチームワークの重要性も実感したと話します。

「昨年の8月からペアで一緒に研究し、発表もしました。相手とは学校も違い、家も離れていたため、スケジュールを合わせて作業を進めることに苦心しましたが、研究で成果を上げるには力を合わせることやグループワークが必要だということを実感しています。他校の生徒が頑張っている姿を見て刺激にもなりました」。この経験をぜひ今後の学びや進路選択に活かしていくことを期待します。

2017年度卒業生進路状況

今年度の金城学院大学への進学者数は内部推薦者数171名に一般推薦・受験での進学者21名を加えて計192名(卒業生全体の62%)となり内部推薦では多くの生徒が第一希望の学科に進学することができました。

外部受験コースでは国公立大学合格

者が名古屋大学2名、名古屋工業大学1名、名古屋市立大学2名、岐阜大学1名、など合計11名となりました。

私立大学へも早稲田大学1名をはじめ、東京理科大学6名、青山学院大学4名、明治大学3名、立教大学3名、南山大学17名、同志社大学10名、立命館大学2名、

関西学院大学12名、兵庫医科大学(医)1名、などの合格を出すことができました。

また、「協定校推薦制度」を利用し、関西学院大学へは10名、同志社女子大学へは1名の生徒が進学していきましました。卒業生の今後のご活躍をお祈りしています。



中学校1、2年生58人が 外国人留学生と英語研修

3日間の英語学習プログラム イングリッシュ・ホリデー

3月22日～24日、金城学院大学で中学校の英語学習プログラム「イングリッシュ・ホリデー」が行われ、中学校1、2年生の希望者58人が参加しました。多くの生徒に生の英語にふれてほしいという趣旨で企画され、今回が初開催。名古屋大学大学院の外国人留学生をリーダーに、生徒たちはグループに分かれて学習しました。

リーダーの13人は西ティモールやウガンダ、アルゼンチン、ベナン、ケニア、ロシア、中国、ラオスなど出身もさまざまで、コミュニケーションは英語のみです。生徒たちはリーダーたちから各国のあいさつや文化の紹介を受け、分からないことや興味を持ったことを質問。またグループ別にポスター発表を行い、リーダーたちと質疑応答を行いました。お互いの国の紹介や交流を通し、英語というコミュニケーションツールの必要性和楽しさや「自分から話そう」と思う気持ちの大切さを学ぶ機会となりました。

「このプログラムの目的は英語を学ぶことですが、それ以上に、世界には自分とは違う肌の色、髪の毛の色をした人たちがたくさんいることを実感することや、日本の文化などを伝える体験してほしいと考えています。そのためにまずはカルチャーショックを解くところからはじまり、英語をその“手段”として使ってみてほしいと思いました。生徒たちは物怖じせず、

英語でコミュニケーションすることに慣れてくれたと思います」と引率の兼元康江先生は研修を振り返ります。



プログラムきっかけに 英語への興味を深める

終了後のアンケートではほとんどの生徒が「海外のことについて知識や理解を深めることは、自分の可能性を広げることにつながると思う」と回答。ほかにも「来年も参加したい」「いろいろな国の人と会え、知ることができて楽しかった」「リスニング力がとてもついた」「日本がどんな風に思われているかわかった」「名前も聞いたことのない国でも英語でつながることが



金城学院中学校
兼元 康江 教諭

できた」などの感想が上がりました。

これを受けて兼元先生は「生徒たちにはさらに積極的になってほしい。また今回の研修で得た達成感がアメリカ語学研修、そして高校でのイートン・カレッジサマースクールへ興味を持つことにつながることを期待しています」と話します。

「プログラムに参加した生徒たちの声を聞き、他の生徒たちにとっても英語に対する興味が深まるきっかけになれば嬉しいです。英語は本来は“勉強”科目ではなくみんなの世界を広げるための“道具”であるということが生徒たちの心に浸透していくことを願っています」と兼元先生。プログラムは今後も続けられる予定です。

国公立大	10	専修・各種学校	1
私立大	81	就職	0
金城学院大学	192	進学準備	21
国立短期大学	0	その他(海外留学など)	1
私立短期大学	2	卒業生総数	308

(進学者実数)

2017
年度

決算報告

金城学院の2017年度の決算について、お知らせします。学校法人では学校法人会計基準という法令に基づき計算書類(決算書)を作成しますが、ここでは、事業活動収支計算書、貸借対照表、資金収支計算書の3表によって決算概要を説明します。

収支の概要

事業活動収支計算書は、次の三つの活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容並びにすべての事業活動収入及び事業活動支出の均衡の状態を明らかにする計算書類です。

教育活動収支は、学生・生徒・園児への教育並びに研究活動に係る収入と支出の差額であり、2017年度1億2千3百万円と

なっています。

教育活動外収支は、教育活動以外の経常的な活動に係る収入と支出の差額であり、2017年度5千3百万円となっています。

特別収支は、その他の臨時的な活動に係る収入と支出の差額であり、2017年度は建物取り壊しによる資産処分差額の増額等により△4億7千2百万円となっています。

これらの結果、基本金組入前当年度収支差額△2億9千6百万円となっています。

また、学校法人では、必要な資産を継続的に保持するため、教育・研究のために取得した固定資産の金額を基本金として留保しなければなりません。2017年度の基本金組入額は11億7千7百万円になり、その結果、当年度収支差額は△14億7千3百万円となりました。

◎ 2017年度 事業活動収支計算書

(単位：千円)

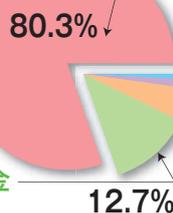
教育活動収支		
収入	学生生徒等納付金	8,169,341
	手数料	133,598
	寄付金	70,498
	経常費等補助金	1,287,424
	付随事業収入	64,088
	雑収入	449,460
	教育活動収入計	10,174,409
支出	人件費	5,724,234
	教育研究経費	3,777,073
	管理経費	548,910
	徴収不能額等	1,068
	教育活動支出計	10,051,284
教育活動収支差額	123,125	
教育活動外収支		
収入	受取利息・配当金	77,777
	その他の教育活動外収入	0
	教育活動外収入計	77,777
支出	借入金等利息	24,971
	その他の教育活動外支出	0
	教育活動外支出計	24,971
教育活動外収支差額	52,806	
経常収支差額	175,931	

特別収支		
収入	資産売却差額	7,231
	その他の特別収入	20,181
	特別収入計	27,412
支出	資産処分差額	499,382
	その他の特別支出	0
特別支出計	499,382	
特別収支差額	△471,971	
基本金組入前当年度収支差額	△296,040	
基本金組入額合計	△1,177,397	
当年度収支差額	△1,473,438	
前年度繰越収支差額	△7,352,020	
基本金取崩額	1,235,284	
翌年度繰越収支差額	△7,590,174	
(参考)		
事業活動収入計	10,279,598	
事業活動支出計	10,575,638	

◎ グラフで見る教育活動収支

学生生徒等納付金

授業料、施設設備費、実験実習料などの収入です。



収入

寄付金 0.7%
卒業生、企業等から頂いた寄付金です。

手数料 1.3%
入学検定料や証明書発行手数料などの収入です。

5.0% その他の収入
付随事業収入、雑収入などの収入です。

支出

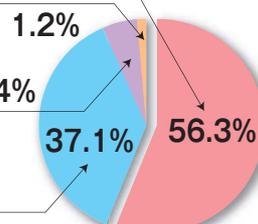
収支差額
教育活動の収入と支出の差額です。

管理経費 5.4%
教育研究に直接関係しない経費支出です。

教育研究経費 37.1%
授業や実習などの教育に関する経費と教員・学生の研究に関する経費支出です。資格講座、就職講座の経費なども含まれます。

人件費

全ての教員・職員の給与、所定福利費などの経費支出です。



資産・負債・純資産の概要

貸借対照表は、年度末における財政状態を明らかにする計算書類であり、資産・負債・純資産を示しています。

資産は、土地・建物等の有形固定資産、将来の特定の支出に備えるための資金を留保した特定資産、ソフトウェア等のその他の固定資産、現金預金等の流動資産から成っており、2017年度末505億1千5百万

円となっています。

負債は、返済期間が一年以内に到来しない借入金等の固定負債、返済期間が一年以内に到来する借入金・前受金等の流動負債から成っており、2017年度末104億8千6百万円となっています。なお、負債に含まれる借入金は、金城学院キャンパスマスタープラン「KMP21」によるキャン

パスの大規模リニューアルに伴う日本私立学校振興・共済事業団からの借入金です。

純資産は、外部へ返済の必要のない金城学院に完全に帰属する資産総額であり、正味財産と呼ばれています。これは、2017年度末400億2千9百万円となっており、2016年度末403億2千5百万円から2億9千6百万円減少しています。

◎ 2017年度 貸借対照表

(単位：千円)

科目	本年度末	前年度末
有形固定資産	34,890,701	35,312,035
特定資産	7,870,000	8,270,000
その他の固定資産	84,507	72,937
流動資産	7,670,247	7,516,835
資産の部合計	50,515,455	51,171,806

科目	本年度末	前年度末
固定負債	8,489,151	8,946,616
流動負債	1,996,847	1,899,693
負債の部合計	10,485,997	10,846,309
基本金	47,619,631	47,677,518
繰越収支差額	△7,590,174	△7,352,020
純資産の部合計	40,029,458	40,325,498
負債及び純資産の部合計	50,515,455	51,171,806

資金の動きの概要

資金収支計算書は、一年間のすべての収入及び支出の内容並びに支払資金の収入及び支出のてん末を明らかにする計算

書類です。2017年度は教育研究のための経費として、23億4千4百万円の資金が使われ、教育研究の充実が図られました。

また、2017年度の支払資金の残高は、73億2百万円となっています。

◎ 2017年度 資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部	
学生生徒等納付金収入	8,169,341
手数料収入	133,598
寄付金収入	78,073
補助金収入	1,287,424
資産売却収入	0
付随事業・収益事業収入	64,088
受取利息・配当金収入	77,777
雑収入	448,409
借入金等収入	0
前受金収入	1,191,860
その他の収入	4,379,980
資金収入調整勘定	△1,529,754
前年度繰越支払資金	7,244,877
合計	21,545,672

支出の部	
人件費支出	5,729,271
教育研究経費支出	2,344,481
管理経費支出	527,193
借入金等利息支出	24,971
借入金等返済支出	458,390
小計	9,084,307
施設関係支出	1,245,752
設備関係支出	281,020
小計	1,526,772
資産運用支出	1,172,669
その他の支出	2,668,338
資金支出調整勘定	△208,177
翌年度繰越支払資金	7,301,763
合計	21,545,672

2019
年度

金城学院 学生・生徒・園児募集

2019年度の学生・生徒・園児の募集につきましてご案内いたします。

入試に先立ち、オープンキャンパスや説明会なども開催いたしますので、ぜひご参加ください。

また大学・大学院で学び直したい方、新たな資格や学位の取得をお考えの方、お子様の進路などにぜひご案内ください。

下記の内容は2018年7月現在の情報となっております。変更される場合もございますので必ず各入試の「募集要項」をご確認ください。

2019年度入試

※詳しくはホームページをご覧ください。

▶年間学費が50万円になる!「金城サポート奨学金」

・2年次以降も各学科での学業成績が上位40%以内であれば、継続して給付されるので安心です。返還の義務もありません。

給付対象 一般入試(前期)[2・3科目型] 成績上位者100名、センター試験利用入試(前期) 成績上位者100名!

▶一般入試(前期)[2・3科目型]を複数日受験すると、「プラス1」判定!

検定料不要! 一般入試(前期)[2・3科目型]を複数日受験したうちの高得点2科目を合計し、もう1回合否判定!

つまり2日間受験で3回判定、3日間受験した場合は、4回判定します。

▶社会人の方へ 奨学金20万円給付!

・社会人入試(大学・大学院)、社会人編入学(大学)での入学者全員に奨学金20万円を給付。

大学・大学院入試
TOPICS

	入試種別	出願期間	入試日	合格発表日
大学	一般公募制推薦入試※1	10月25日(木)～11月1日(木) 必着	11月11日(日)	11月23日(金)
	一般入試(前期) [2科目型・3科目型・複数日評価型 ・英語外部試験利用型]※2	1月7日(月)～1月23日(水) ネット出願のみ	1月31日(木)・ 2月1日(金)・2日(土) ※薬学部は、1月31日(木)と 2月2日(土)のみ実施	2月13日(水)
	センター試験利用入試(前期)※3	1月7日(月)～1月21日(月) ネット出願のみ	個別試験なし	2月13日(水)
	センタープラス方式入試※3	1月7日(月)～1月28日(月) ネット出願のみ	2月12日(火)	2月18日(月)
	一般入試(後期)	2月13日(水)～2月22日(金) ネット出願のみ	3月2日(土)	3月6日(水)
	センター試験利用入試(後期)※3	2月21日(木)～3月8日(金) ネット出願のみ	個別試験なし	3月15日(金)
	一般編入学試験	6月13日(水)～6月20日(水) 必着	6月30日(土)	7月6日(金)
	社会人・外国人留学生・海外帰国子女入試 社会人編入学試験	11月19日(月)～11月26日(月) 必着	12月8日(土)	12月14日(金)
薬学部編入学試験(4年次)	2月14日(木)～2月21日(木) 必着	3月7日(木)	3月15日(金)	
※1 一般公募制推薦入試[適性検査型][小論文型]は地方試験会場を設けています。地方試験は豊橋・岐阜・四日市で実施します。 ※2 一般入試(前期)1月31日(木)・2月2日(土)は地方試験会場を設けています。地方試験は浜松・岐阜・四日市・金沢で実施します。※3 センター試験を受験していることが出願条件となります。				
大学院	在学生特別入試(前期課程I期)	4月20日(金)～5月1日(火) 必着	5月12日(土)	5月17日(木)
	秋期試験 在学生特別入試(前期課程II期※4・後期課程) 卒業生特別入試秋期	9月25日(火)～10月2日(火) 必着	10月13日(土)	10月18日(木)
	春期試験 卒業生特別入試春期	1月29日(火)～2月5日(火) 必着	2月16日(土)	2月21日(木)
	※4 臨床心理学分野は実施しません。			
中学校	中学校入試	1月3日(木)～1月10日(木) ネット出願のみ	1月19日(土)	1月22日(火) 郵送(速達)
	学校説明会 6月16日(土) 場所/金城学院中学校 学校説明/9:30～10:30 11:00～12:00 体験授業・校内見学/9:30～13:00 お問い合わせ先:中学校事務室 TEL052-931-0821(代表)/受付時間9:00～17:00		入試説明会 11月10日(土) 場所/金城学院中学校 入試説明/10:00～12:30	
幼稚園	幼稚園体験及び入園説明会		願書配付	願書受付
	5月の連休明けから幼稚園体験・入園説明会の予約を受け付けています。(随時受付) お問い合わせ先:幼稚園事務室 TEL052-798-0053(代表)/受付時間14:00～17:00 ※詳しくは幼稚園ホームページをご覧ください。		9月1日(土)9:00～ 願書配付は幼稚園体験・入園説明会に参加された方を対象にしています。 ぜひ、幼稚園体験のご予約をください。	10月1日(月)9:00～ 優先入園枠があります。 詳しくは幼稚園へお問い合わせください。

金城学院目的指定寄付金

この度は、金城学院へのご寄付、心より感謝申し上げます。今号では、2017年11月から2018年5月末日までにご寄付いただいた方々のご芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。

今、日本の教育現場そして金城の生徒・学生たちが卒業して活躍する社会環境は、日々変化しています。移り変わる時代に対応するために、金城学院では、諸設備及び教育研究環境

の充実を図り、教育効果の向上を期するための取り組みを行っております。

2012年度より10年かけて中高大の教育施設の大規模リニューアル(KMP21)を進めています。また、金城サポート奨学金をはじめとした独自奨学金制度を用意するなど、内外の教育環境の充実を図り、学生・生徒たちが安心して学び、過ごせる学院づくりを推進しています。

これらの取り組みを推進またはサポートするためには多大な経費が必要です。福音主義キリスト教に基づく女性教育、全人教育、国際理解の教育の想いを堅持してきた先人たちの想いを確実に次につなげるため、教職員一同より一層努めてまいりますので、今後とも温かいご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

寄付金ご芳名録 (2017年11月～2018年5月末日までにいただいたご寄付をご報告させていただきます)

池田 香織	種田 美佳子	稲垣 幸雄	瀧 智珠子	分部 尾上
中川 洋子	粕谷 照子	畔柳 正樹	柳 敏江	鷓野 広信
武田 智子	PTNA名古屋支部	後藤 貴子	文学部社会学科一回卒業生一同	株式会社 アドマテックス
荒居 秀雄	ブルグミューコンソール事務局	佐久間 宏司	甲斐 公也	茅壁 幸子
大浜 仁也	坂口 龍一郎	林 哲也	山崎 清子	伊藤 秀夫
高井 伶子	大野木 英子	遠藤 卓也	志水 聡子	木村 尚仁
株式会社 正文館書店	渡邊 喜代子	肥後 桂子	平野 イソエ	(敬称略 順不同)
佐藤 睦子	犬飼 保夫	教育産業 株式会社	前田 剛孝	※匿名希望19件
飯田 康之	森川 信義	中西 隆夫	中西 巧	同一寄付者による
田中 せい子	千葉 貴栄	長縄 光子	不破 賢治	複数回の寄付4件

寄付者	件数
在校生ご父母	30
一般有志	2
教職員(元)	9
卒業生	21
その他	6
総計	68

寄付目的	寄付金額(円)
学生・生徒へ	225,000
キャンパス環境整備へ	90,000
文化事業へ	10,000
国際交流へ	80,000
学院全体へ	1,705,000
その他	2,380,000
総計	4,490,000

金城学院維持協力会

金城学院維持協力会は、「金城学院の教育活動に対する支援と、さまざまな社会環境の変化に対する適切な

助言を行うことによって、金城学院の維持・発展に寄与すること」を設立の趣旨とし、2011年度に発足されました。現

在、東海地区を代表する有力企業などにご賛同いただき、ご入会いただいております。

Kinjo Gakuin Information

金城学院インフォメーション

金城学院

第67回メサイア演奏会

[日時] 11月23日(金・祝) 16:30～
[場所] 刈谷市総合文化センター「アイリス」
[入場券] 自由席 1,500円
[お問い合わせ] 中学校事務室
TEL. 052-931-0821

金城学院大学

『OPEN CAMPUS 2018』 金城で学ぶ価値がわかる3日間

[日時] 7月 8日(日) 9:30～15:30
8月11日(土・祝) 9:30～15:30
10月20日(土) 10:00～15:00
※10月20日(土)は金城祭同時開催。
※イベント内容についてはHPをご覧ください。
[お問い合わせ] 大学入試広報部
TEL.0120-331791
http://www.kinjo-gakuin.net

金城学院高等学校

「しらゆり祭」開催
『華～process～』
[日時] 9月21日(金)オープニング(在校生のみ)
9月24日(月・祝)一般公開日
9:15～14:30(予定)※入場にはチケットが必要です。
9月25日(火)エンディング(在校生のみ)
[場所] 高等学校
[お問い合わせ] 高等学校事務室
TEL. 052-931-6236

金城学院高等学校

2018年度金城学院高等学校PTA講演会
小島 慶子氏
『子育ては自分と世界を
結び直す学びの場』
[日時] 11月8日(木)
11:00～12:30(10:30開場)
[場所] 高等学校栄光館講堂
[お問い合わせ] 高等学校事務室
TEL. 052-931-6236

金城学院中学校

「恵愛祭」開催
『可能性は無限大～We can do it～』
[日時] 10月5日(金)在校生のみ
10月6日(土)一般公開日
10:00～14:30(予定)
※入場にはチケットが必要です。
[お問い合わせ] 中学校事務室
TEL. 052-931-0821

金城学院中学校

2018年度PTA講演会
佳田 裕子氏
『次の世代へのメッセージ
今、私にできること』
[日時] 10月19日(金)
13:00～14:30(予定)
※入場にはチケットが必要です。
[場所] 中学校講堂
[お問い合わせ] 中学校事務室
TEL. 052-931-0821

金城学院幼稚園

父母の会バザー
父母の会の手作り・献品コーナー、卒園生・在園児によるお店屋さんなどがあります。
[日時] 9月15日(土)
10:00～14:00
※雨天決行。警報発令時は9月17日(月・祝)に変更となります。
[場所] 幼稚園
[お問い合わせ] 幼稚園事務室
TEL. 052-798-0053



私にとっての金城学院 vol.04



本部棟とW1棟を
結ぶ橋からの風景が好き。
桜の季節は特に美いです。

金城学院大学
薬学部薬学科6年
松尾 有美さん

金城学院大学
薬学部薬学科6年
森高 唯菜さん

聖書の言葉にふれることで
人生が豊かになり、
目標もできました。



Q & A

01 金城学院大学の魅力は
何だと思いますか？

松尾 思いやりのある仲間がたくさん
います。私も金城学院に入学したことで
感謝する気持ちを養うことができ、自然
にありがとうと言えるようになりました。

森高 キリスト教主義に基づいた教育
だと思います。世界人口の3人に1人
はキリスト教です。その人たちの考えを
知ることができるのが魅力です。

02 大学ではどのようなことを
研究していますか？

松尾 調剤薬局において、薬剤師と
管理栄養士が協働で指導する場合と、
薬剤師だけの説明ではどちらの治療効
果が高く得られるかを研究しています。

森高 在宅医療における薬剤師に対す
る意識調査です。患者さんや多職種
の方が薬剤師をどう思っているかを調査
し、薬剤師の役割と課題を探ります。

03 これからの夢や展望を
教えてください。

松尾 人から頼られる人になりたいと
思っています。患者さんはもちろん、
薬剤師同士や他の医療関係者からも
信頼される存在になりたいです。

森高 ジェネラリストとしての薬剤
師です。医薬品の知識だけでなく、患者
さんに対してトータルヘルスケアが
できる薬剤師を目指しています。

2018年度
聖句標語

『主に信頼するものは慈しみに囲まれる。』

旧約聖書 詩編 32編 10節

イスラエルで今でも最も愛されている王がダビデです。彼は幾つ
かの詩編で罪を告白し神に赦しを請うています。32編も神からの
罪の赦しを詠ったダビデの詩です。罪は彼の心に葛藤を生み、
精気を奪い、彼は病める者になりました。そのような苦しみ
の中で彼は神に罪を告白し赦され、再び王として立ち上がりました。

金城学院は2019年に創立130年を迎えますが、その道のりは
必ずしも容易ではありませんでした。創立期には学生が集まらず、
学長であったアメリカ人宣教師に対する偏見、国粹主義の台頭、
第二次大戦時のキリスト教迫害など決して本学の罪ではありません
が先人の教職者も学生も辛い思いをされたのではと思います。
しかし苦難の中であって神は決して信じる者を見捨てず守り、祝福
を与え続けて下さいます。

「主に信頼するものは慈しみに囲まれる。」という祝福を確信した
ダビデは「神に従う人よ、主によって喜び踊れ。すべての正しい人よ、
喜びの声をあげよ。」と結んでいます。私たちも130周年を迎えるに
あたり主に従い喜びの声を高らかに上げたいものです。

吉松 純(人間科学部宗教主事)

～みどり野会(同窓会)より～

みどり野会は1903年に設立された金城学院の卒業生が集う会です
『みどり野会』という名称は大正9年(1920年)
旧約聖書の詩篇第23篇から名付けられました
「主はわが**ぼしゆ**の牧者なり われ**わが**の**みどり**の野にふさせ いこいの水濱にともなひたまふ」
主は我をみどりの野にふさせ いこいの水濱にともなひたまふ」
神さまによってこの学院に集められた私たちが
卒業後も母校に集まり いこいの時を過ごす場という意味で
「みどり野会」はいつも皆さんと共にあるのです

みどり野会からのお知らせ

召天者記念礼拝および恩師を偲ぶ会

■日 時 / 2018年10月13日(土) 10:45～11:45
■場 所 / エラ・ヒューストン記念礼拝堂
■礼 拝 / 金城学院宗教総主事 小室尚子先生
2017年7月～2018年6月までになくなられた恩師と卒業生のための
追悼礼拝です。どなたでもご参加いただけます。

第3回大学ホームカミングデー

■日 時 / 2018年10月13日(土) 12:00～15:30
■場 所 / 大学キャンパス

クリスマス讃美礼拝

■日 時 / 2018年12月8日(土) 10:30～14:00
■場 所 / 中学校白百合館礼拝堂予定(駐車場は利用不可)

◎お問合せはみどり野会事務局まで

本 部 TEL.052-931-4480(中学校白百合館1階)
分 室 TEL.052-798-0193(大学本部棟4階)
H P http://www.kinjo-midorino.com
※活動詳細は会報「みどり野」、またはホームページをご覧ください。